一関工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2	018年度)	授業科目	卒業研究		
科目基礎情報								
科目番号	0024			科目区分	専門 / 必	修		
授業形態	実験			単位の種別と単位数	数 履修単位:	履修単位: 9		
開設学科	物質化学工学科			対象学年	5			
開設期	通年			週時間数	9			
教科書/教材								
担当教員	二階堂 満							
지수다표				· ·				

|到達目標|

①研究のための調査・計画を立てることができる。 ②自主的・継続的に創造性を発揮しなが研究を実施することができる。 ③研究成果をまとめ、それを発表することができる。 [教育目標]A, C, D, E [学習・教育到達目標]A-2, C-3, D-1, D-2, E-1

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 研究のための調査・計画を立てる。 研究のための調査研究がができる。	研究のための調査・計画を綿密に たて計画的に実験を行うことがで きる。	研究のための調査・計画をたてる ことができる。る。	研究のための調査・計画をたてる ことができない。	
評価項目2 自主的・継続的に創造性を発揮し ながら研究を実施することができ る。	自主的・継続的に創造性を発揮し ながら研究を実施することができ る。	自主的・継続的に研究を実施する ことができる。	自主的・継続的に研究を実施する ことができない。	
評価項目3 研究成果の報告書の内容。	研究成果の報告書が新規性と独創 性があり優れている。	研究成果の報告書が優れている。	研究成果の報告書が不十文である。	
研究発表会の内容	研究内容の発表において、わかり やすく発表を行い、質疑応答も優 れている。	研究内容の発表において、わかり やすく発表を行う。	研究内容の発表において、不十分 な内容である。	

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	問題解決の手法を身に付ける。研究の進め方、実験技術、結果のまとめ方などを体得するとともに、他人との協調性、 新しい技術開発に対するアプローチの方法および取り組む能力を養う。中間および最終報告会を行い。卒業論文を提出 する。
授業の進め方・方法	各研究室の指導教員の指導を仰ぎながら研究を実施する。
	卒業研究は、高専の集大成の取り組みであり、極めて重要な科目である。それぞれの指導教員のもとで、主体的な行動 を取れるよう留意すること。反復的でオープンエンドな取り組みが求められる。また、活動内容は記録しておくこと。

注意点

[評価方法・評価基準] 指導教員を含む3名の教員により、研究内容(70%)、プレゼンテーション(30%)で評価する。研究目的に向っての問題解 決能力、自主的・計画的な学習能力、プレゼンテーション能力を身に付けたかどうかを評価する。 総合成績60点以上を単位修得とする。

授業計画

1XXIII		1		
		週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	研究テーマ選定のための調査	研究テーマ選定のための文献調査等を行う。
		2週	研究テーマ選定のための調査	研究テーマ選定のための文献調査等を行う。
		3週	研究テーマ選定のための調査	研究テーマ選定のための文献調査等を行う。
		4週	研究テーマを設定し、計画を立てる。	研究テーマを設定し、計画を立てることができる。
	1.0+0	5週	研究テーマを設定し、計画を立てる。	研究テーマを設定し、計画を立てることができる。
	1stQ	6週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
		7週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
		8週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
±5.₩0		9週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
前期		10週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
		11週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
	2 = 40	12週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
	2ndQ	13週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
		14週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
		15週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
		16週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。

	1週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
	2週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
	3週	中間発表会	研究の中間発表を行う。
	4週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
3rdQ	5週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
	6週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
	7週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
	8週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
	9週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
	10週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
	11週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
4thQ	12週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
	13週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
	14週	研究実施	問題解決能力や創造性を発揮し、自主的・継続的に研究をすることができる。
	15週	卒業研究最終発表会	研究成果の論文を提出し、卒研の成果を最終発表する。
	16週	まとめ	
		2週 3週 4週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 12週 13週 14週 15週	2週 研究実施 3週 中間発表会 4週 研究実施 5週 研究実施 6週 研究実施 8週 研究実施 8週 研究実施 10週 研究実施 11週 研究実施 12週 研究実施 13週 研究実施 14週 研究実施 15週 卒業研究最終発表会

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標 分類 学習内容 学習内容の到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力 工学基礎	丁学甘磁	技術者倫理 (知的財産、法令順守、	技術者倫理 (知的財産、 法続可能け、 持続可能性 を含む)およ び技術史	全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。		
	工于圣诞	持続可能性 を含む)およ び技術史		技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相 づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
	汎用的技能		汎用的技能	グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実 践できる。	3	
		汎用的技能		書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に 収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
分野横断的能力				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について 自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・ 合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等 の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現でき る。	3	
	態度・志向 性(人間力)	態度・志向 性	態度・志向 性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	4	

				自らの考えで責任を	を持ってものごとに	こ取り組むことがで	:ea。	4	
				目標の実現に向けて	て計画ができる。			4	
				目標の実現に向けて	て自らを律して行動	かできる。		4	
				日常の生活における。	3時間管理、健康管	管理、金銭管理など	ができる	4	
				社会の一員として、 る。	自らの行動、発記	言、役割を認識して	行動でき	4	
				チームで協調・共同	ョすることの意義・	効果を認識してい	いる。	4	
				チームで協調・共同者の意見を尊重する。				4	
				当事者意識をもって。	てチームでの作業・	・研究を進めること	ごができる	4	
				チームのメンバー。	としての役割を把掘	量した行動ができる)	4	
				リーダーがとるべき	き行動や役割をあげ	げることができる。		3	
				適切な方向性に沿っ	った協調行動を促す	すことができる。		4	
				リーダーシップをす での相談が必要で			チーム内	3	
				法令やルールを遵守	守した行動をとれる	5.		4	
				他者のおかれている	る状況に配慮した行	亍動がとれる。		4	
				技術が社会や自然し負っている責任を	こ及ぼす影響や効! 挙げることができる	果を認識し、技術者 る。	が社会に	4	
				工学的な課題を論理	里的・合理的な方法	まで明確化できる。		3	
			学 総合的な学 創 習経験と創 力 造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。				3	
	総合的な学	総合的な学		要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。				3	
	習経験と創 造的思考力	後之創 習経験之創 思考力 造的思考力		課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。				3	
				提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければなら ないことを把握している。				3	
				経済的、環境的、 続可能性等に配慮し	生会的、倫理的、例 して解決策を提案で	建康と安全、製造可ごきる。	『能性、持	3	
評価割合									
	試験	3	 発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	研究内容	É	計
総合評価割合	î O	3	30	0	0	0	70	1	00
基礎的能力	0	()	0	0	0	30	3	0
専門的能力	0	3	30	0	0	0	40	7	0
分野横断的能	力 0	()	0	0	0	0	0	